

## Dr. BERNATOWICZ の訃

この夏札幌で開かれた第7回国際海藻学会議のおり、ハワイ時代の多くの知己に再会し或いは抱き、或いは手を握り、欧米人をまねて大げさに喜び合ったその席で、はからずもハワイ大学教養部の教授 Dr. ALBERT J. BERNATOWICZ の訃音に接して嘔然とした。私が同教授にはじめて会ったのは、1966年12月のホノルルに到着した日で、大学内の東西センターで昼食をしての帰り、同行の Dr. DOTY に紹介されてであった。長身、やせ型で実にこやかな、話していて楽しくなるような方であった。中央アメリカのソゾ属も見せてあげますよというので、後刻うかがったところ Dr. W. R. TAYLOR と共に集めたたくさんの標本を見せてもらい、文献等も常に笑顔で貸してくれたものだった。

その後、私の親戚の家々に招かれた際等、その子息たちは私の専門を海藻と知ると、きまって「では貴方は Dr. BERNATOWICZ とお友だちですね。とても良い先生ですよ。」といて大喜びしたというのも一再にとどまらず、教授が多数の学生にしたわれていることがよく推察できたものである。一般教養の教授冥利につきた方ともいえようかと思う。最近友人から送付された6月2日付のホノルルアドヴァタイザー紙によると「19,000人以上の学生を教育したポピュラーな教授は病身を理由に退職し、約1カ月後の5月31日、51才で逝去され、故人の遺志で葬儀の礼拝は行なわれない」由。

私は帰国の日、教授に日本藻類学会への入会を勧誘した。私のにわか作りの入会申込書に「ゴム印でも良いの」と問いながら、几帳面な手つきで捺印、会費を托してにこやかに握手して別れたのが最後になった。滞在中、山田幸男、時田郁両先生はじめ多くの方々からのお手紙に「Dr. BERNATOWICZ によろしく」が書いてあったものであった。そのつど嬉しそうな笑顔を見せた教授。忘れ得ぬ椰子の木蔭の笑顔に思いをはせて、心からご冥福を祈る。

一斎 藤 譲一